

令和7年度 近畿中国森林管理局 林野公共事業の事業評価技術検討会 議事概要

1 月 日： 令和7年7月24日（木）10:00～11:00

2 場 所： 近畿中国森林管理局 第1会議室

3 出席者： 技術検討会委員

委員長 井上昭夫

委 員 土井一生

委 員 深町加津枝（WEB 参加）

説明員 近畿中国森林管理局

総務企画部長、計画保全部長、

企画調整課長、治山課長

4 議 題： 期中の評価（民有林直轄治山事業：十津川地区）

5 議事概要

（近中局）治山事業（十津川地区）の期中の評価（案）について説明。

（委 員）事業に係る金額やアクセス面等を踏まえて、追加施工区として宇宮原区域が検討されているが、宇宮原区域以外の箇所について、リスクに係るモニタリングは実施しているのか。

（近中局）奈良県や関係自治体のほうで継続的にモニタリングが実施されており、国土地理院等が保有する年代別航空写真を活用した拡大崩壊の状況や年間土砂流出に係る差分解析などが行われています。

なお、施工区の追加の検討にあたっては、事業規模や高度な技術力を要する箇所のほか、国が事業を行うことで事業効果の早期発現が期待できることが挙げられます。

このため、奈良県で対応が可能と判断される箇所については、採択を見送ったところです。

（委 員）宇宮原区域は直下に国道が通っており、重要度が高い地域であることから、事業区域として追加することは非常に重要と思います。

（委 員）1点目として、保全対象となる人家の分布状況はどのようになって

いるのか。また、事業にかかる工期が長くなると居住していない人家もみられると思われるが、地域の状況変化はどのようにになっているのか。

2点目として、植生の回復が見受けられる山崎谷1号地の山腹工施工地について、どのような木本植物の遷移が確認されていますか。

3点目として、神納川区域の杉清八丁工区について、植生の回復が図られた箇所や水路や周辺の生態系はどのように変化していますか。

(近中局) 保全対象となる人家の分布状況について、崩壊地の直下、または崩壊地から2～3km下流に位置する住宅等が対象となります。なお、居住状況については、前回から変化はありませんでした。

木本植物の遷移について、当該施工地の周辺はスギの人工林であり、施工地内においてもスギが点在して発生しています。また、樹種は少ないものの広葉樹の発生も一部で確認されています。

杉清八丁工区について、昭和56年に完成した以降、現在は森林へ復旧していますが、直近で現地確認ができていないため、水路の状況、植生等の詳細は不明ですが、当時実施した植栽工による樹種の遷移状況も含め、確認したいと思います。

(委員) 保全対象となる人家について、一般的には過疎化が進む中で174戸の人家のうち居住していない家屋も想定され、事業の必要性・緊急性の観点から、地域の暮らしがどのようにになっているのかという視点も必要と考えます。

次に、公共事業の実施にあたっては、生物多様性や生態系へ配慮した取組が求められる時代となっている。事業の評価やモニタリングにおいても植生の遷移状況等を知ること、新たな事業を実施する際に参考となることもあると思われる。今後、是非こうした情報も発信していくことを念頭に置いていただきたい。

(近中局) 事業の実施にあたっては、守るべき対象をしっかりと認識して行うことが重要であり、いただいたご意見を踏まえ、引き続き、保全対象の確認に努めて参ります。

また、治山事業は構造物を作設することが目的ではなく、荒廃地域を森林に戻すことを目的としています。このため、植生の遷移により森林が形成される過程が重要であることを踏まえ、こうした観点での説明ができるよう現地の確認も含めて実施して参ります。

(委員) よろしくお願ひします。

(委員) 今西工区において、既設谷止工の下流側の浸食原因は何か。

(近中局) 今西工区については、溪流の水量が多く、土砂の礫が小さいこともあり、通常の降雨であっても土砂の流出が確認されています。一方で、上流域の土砂は止まっており、下流に流出する土砂が増えたためと考えられます。

(委員) 下流域の土砂の流出を防ぐための対策はあるのか。

(近中局) 計画勾配に即した構造物を階段状に設置していくことが対策のポイントとなります。なお、今西工区については、レーザ計測を用いて土砂の移動を確認していますが、集水面積も大きいことから、一雨で数メートルも地表面が上下する場合もあり、溪流全体で土砂の移動を確認していく必要があります。

(委員) 全体のバランスを考えながら、引き続き、モニタリングも踏まえて対策を講じていただくようお願いします。

(委員長) 治山事業は、国土の保全、国民の安全に係る観点からも必要な事業であり、建設資材の高騰等に伴い施工単価も上昇傾向にある中、財政的にも厳しい折と思われるが、是非、継続した実施をお願いしたい。

(近中局) コスト縮減は、非常に重要な課題と認識しており、ICTによる新技術や様々な土木資材等が出回っているなかで、安価でより効果の高いものを模索しながら、引き続き、取り組んで参りたいと思います。

(委員長) 治山事業（十津川地区）の期中の評価（案）に対する意見は、おおむね出尽くしたと思われることから、技術検討会としての意見の取りまとめを行います。

検討委員会として、「期中の評価案」に異議はなく、意見としては本事業の進捗により大規模な山腹崩壊地が森林に戻りつつあるなど、事業の効果が認められ、その必要性、有効性、効率性の観点から、今後も環境への配慮及びコスト縮減、工期の短縮に努めながら、事業を継続することが適当と判断される。（異議なし）

以上で、議事を終了する。